

## 会 議 録

|                    |                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                               |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 会 議 の 名 称          | 令和7年度第1回病院運営審議会                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                               |
| 開 催 日 時            | 令和7年(2025年)8月19日(火) 13時30分～15時04分                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                               |
| 開 催 場 所            | 市立豊中病院 講堂 (管理棟5階)                                                                                                             | 公 開 の 可 否                                                                                                                                                                                                                                                                              | <input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可 |
| 事 務 局              | 市立豊中病院 経営企画課                                                                                                                  | 傍 聴 者 数                                                                                                                                                                                                                                                                                | 1 人                                           |
| 公 開 し な<br>かった理由   |                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                               |
| 出<br>席<br>者        | 委 員                                                                                                                           | 足立委員、今井委員、笠井委員、北谷委員、北村委員、勝原委員、<br>澤村委員、多田委員、田辺委員、的場委員、渡邊(美)委員、<br>渡邊(太)委員                                                                                                                                                                                                              |                                               |
|                    | 事 務 局                                                                                                                         | 直川事業管理者、藤野総長、岩橋病院長、中川副院長、今村副院長、<br>西尾副院長、秋田事務局長、小杉医務局長、西田中央診療局長、<br>山内臨床検査部長、生島放射線部長、宇佐美薬剤部長、<br>越智看護部長、斉藤地域医療連携室長、児玉患者支援室長、<br>東山医療安全管理室長、大川リハビリテーション部長、<br>遠藤栄養管理部主査、大澤事務局次長兼病院総務課長、<br>吉良医療情報室長、豊田医事課長、梁病院総務課主幹、<br>南経営企画課課長、角山経営企画課主幹、大園経営企画課主幹、<br>岡村経営企画課長補佐、檜垣経営企画課主査、山口経営企画課主事 |                                               |
|                    | そ の 他                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                               |
| 議 題                | (1) 市立豊中病院運営計画令和6年度「重点項目報告シート」、<br>令和6年度実績について<br>(2) 市立豊中病院運営計画中間見直し【概要版】<br>(3) 市立豊中病院運営計画中間見直し<br>(4) 部会の活動について<br>(5) その他 |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                               |
| 審議等の概要<br>(主な発言要旨) | 別紙のとおり                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                               |

## 令和7年度第1回病院運営審議会 審議等の概要

## 1. 開会

## 2. 委員出席状況報告等

- ・事務局から、全委員12人中12人出席により病院運営審議会第8条第2項に基づき、本審議会の成立を報告

## 3. 議事

## (1) 市立豊中病院運営計画令和6年度「重点項目報告シート」、令和6年度実績について

- ・事務局から、資料1、参考資料1に基づき説明

《意見等》

委員： 土曜日の手術を開始したとのことだが、現在手術室は何室あるのか。

事務局： 手術室は全部で9室あるが、当院は地域周産期母子医療センターということもあり、1室は帝王切開用に確保しているため実質の運用としては8室。現状、手術室の空きが無いので土曜日の手術を開始した。

委員： 豊中市消防局の救急救命士を救急科に配置する取組みを試行的に開始したとあるが、稼働開始は今年度からということか。

事務局： 令和6年度の試行実施を経て、令和7年度の4月から24時間常駐している。3名がそれぞれ交代で来ていただいている。

委員： 最近の応需件数など、昨年度と比較してどのような効果が出ているのか。

事務局： 飽和状態であったが、救急救命士はマンパワーとしてかなり頼れる存在になっており、徐々に応需件数が増えている。

委員： 応需の内容としては、重症の救急患者が増えているのか。それとも、熱中症の患者や、重症ではない救急患者が増えているのか。

事務局： 詳細な分析はまだできてないが、特に職員の手が足りず応需できないというケースが減り、全体的に取れるように現場では感じている。

委員： 依頼件数自体は減っているのか。

事務局： 今年は熱中症での搬送は思ったほど多くなかったと聞いている。応需率に関しては徐々に上げてきているが、全体の依頼件数自体はまだ多い。ただ、昨年度よりも少し全体の件数は少ないようには感じる。

委員： 救急救命士の取組みは今後も続けられるものなのか、一時的なものか。

事務局： 消防局からも非常に学ぶことが多いと評価をいただいております、当面は続ける。

委員： 市立豊中病院の応需件数が増えるのはよいことだが、患者搬送先のファーストチョイスが市立豊中病院になる可能性があるのと、地域の病院には死活問題。多くの救急病院は赤字で、どこも経営改善のため救急患者の受け入れを増やそうと努力しているが、この5～6月はなぜかどこも患者が減少している。本来、市立豊中病院は重症の救急患者を診る急性期病院なので、どのような患者が増えたのか分析が必要。また、救急の現場では、救急搬送支援システムであるオリオンシステムにより、患者の容態に合った近くの救急病院に運ばれる。そういった地域の救急受け入れ体制の構造に影響を与えないか分析してほしい。

事務局： 基本的に、オリオンシステムをベースにして救急患者を受け入れるという点

は変わっていない。引き続き、消防局ともやり取りしながら詳細は解析するが、あえて言うならば、院内での緊急手術の体制などを整えてきた中、それらが結実し、これまで依頼が来ていても受けることができなかった依頼に応じることができて応需率が上がったということもあると思われる。

委員： 重点項目シートの「Ⅳ-1. 働きがいのある職場づくり」について、令和6年度の時間外勤務時間960時間を超える医師（B水準対象者）の割合がかなり減っている要因は何か。例えば、ワークシェアやタスクシェア、人員は変えずに業務の効率化を行ったなど。

事務局： 時間外労働面談の拡充と徹底を行った。従来は前月100時間を超えた職員に面談を実施していたが、前月80時間を超えた職員と当月100時間に迫りそうな職員に対して産業医や診療科部長が面談を実施している。職員の意識づけを徹底できるよう取り組んでいる。また、特定行為研修修了看護師の活用や、コメディカルの手術室配置など、医師の労働時間をタスクシフトして軽減できるよう進めている。さらに、メディカルアシスタント（医師事務作業事務者）もここ数年段階的に増やしている。並行して、毎年実施の労務研修も職員に受講を徹底している。そういった取り組みが少しずつ浸透しているのではないかな。

委員： 労働時間の短縮は、ある程度きちんと業務をこなせる人の配置や、補助者の配置など色々な方法が考えられるが、医師の人数は変更ないのか。

事務局： 医師の人数は、令和5年度に6人増えて以来大きな変更は無い。

委員： 時間外労働の縮小は人件費の問題とも絡んでくるので気になった。もう1点、医師以外、看護師などの職種の労働時間短縮にも取り組んでおられるのか。

事務局： 各部局においては、例えば早出勤務または遅出勤務を取り入れて、勤務時間を柔軟に設定できるようにしている。労務研修実施のほか、部局の所属長を始め、時間外の減少は病院全体で意識を持って進めているところ。

委員： 医師とそれ以外の職種でも、勤務時間の経年比較や比率などはある程度管理することができるようになってきているのか。

事務局： 職種ごとに時間を算出して管理できるようにはなっている。

委員： 以前にもお聞きしたが、市立豊中病院でお持ちの様々な医療機器や物品などの在庫整理による収入はあるのか。

事務局： 新しい機器を買った場合、前の機器はたいてい引き取りという形になり、その分で収入を得ることは無い。備品などの在庫整理は行っている。いわゆる会計上の面から言うと、10万以上の備品については固定資産として帳簿に登録をしている。新しく機器を買う場合、前の機器はその帳簿から落として処分をするという管理の仕方になっている。

委員： 令和6年度は13億円の赤字ということで理解した。先ほどの救急応需率と関連するが、特定病床を返還して病床稼働率は目標値の86%を達成しているが、さらに上の救急応需率を達成するとなると救急患者の受入件数が増える。結局何を目標にして病院が運営されているのか。必要な患者が緊急で入れる場所があるのはよいが、民間病院と市立豊中病院とで共倒れにならないか。

事務局： めざすべき方向性ということで、まずは第一に、当院は急性期病院としてより多くの急性期の患者を受け入れていく。一方で、救急患者の応需件数増加により、さらに赤字が増えるのではという懸念を感じておられると推察する。次の案件でも説明するが、患者数増加を受け、次は当院患者の疾患構成転換を図

り、収入を増やすことで、地域における救急の役割を担いながらも経営改善に努めたい。

委員： 目標設定は救急車搬送受入数7,000人の規模を想定して、稼働率86%と考えているのか。他の数値との関係性や関連はあるのか。

事務局： 繰り返しになるがまずは救急応需が当院の使命。二次救急病院としての使命である。市民および地域のニーズに応えるという意味で、救急搬送はできるだけ受け入れることを掲げている。その中でも特に当院でしか対応できない症例、例えば循環器系疾患や脳卒中、急性腹症などをさらに受け入れていきたいと考えている。救急の応需率アップが目標の一つだが、軽症の救急患者も含めて救急搬送依頼が多くなる中、当院が体制を整えても応需率は下がるか横ばいになる。このように、応需率でいうと全体の搬送依頼件数の増減に影響される。従って、ニーズの問題などもあるが、当面は救急者搬送受入件数に注力し、当院で対応が必要な患者をしっかりと受け入れていく。

委員： 非常に難しい問題だが、やはり市立豊中病院は民間病院が対応できない医療を行っていただきたい。市立豊中病院は人気なので、救急からの依頼が集中し、応需率が上がらないことは理解している。救急車搬送受入件数10,000件を令和9年度の目標とすることはよいと思うが、問題はその中身。入院診療単価が約7万5,000円と低めだが、その原因として単価の低い入院患者が占めていることが予想される。在院日数が10日近いが、これも長い。令和5年度に特定病床50床返還したが、まだ病床数が多過ぎるのではないかな。もう少しダウンサイジングして効率的に周りの病院と連携し、医療を提供していかないと赤字幅はこれからも広がっていくであろう。

事務局： 当院の病床数に関しては、圏域内の他の自治体病院との関係性もある問題。当院のみならず、横の関係の中で協議していく必要がある。永続的に現状のまま続くということは考えられないが、いつどのような見直しをするかは横の関係の中で考えていきたい。豊中市としても大きな問題なので、市長・副市長と市全体として考えていく。

委員： 他市町でいうと、池田市民病院や川西総合医療センターなど、公立病院が近い距離に複数あり患者と職員の取り合いになっている。一方、豊中市内の南部地域では大阪市に相当な患者が行っている。今後を考えると、市立豊中病院がどこでどういう形でやっていくかは地域において非常に重要。建て替えを考える時期だと思うが、例えば堺市立総合医療センターは、10年前に市内の別地域に移転している。医療業界の目まぐるしい変化の中で、市立豊中病院がどのような計画で動いていくかは周辺の民間病院に影響する。できるだけ早くに市として中身のある計画を検討していただきたい。吹田市の健都のような形は非常にもったいない。

## (2)・(3) 市立豊中病院運営計画中間見直し

・事務局から、資料2（概要版）に基づき説明

《意見等》

委員： 国立循環器病センターの移転後、千里ニュータウン周辺からは国立循環器病センターに脳卒中や心筋梗塞の患者を送ることが減ったが、市立豊中病院では

そのような患者が増えているのか。また、救急車搬送受入件数のうち何％がNICUやICUに入る重症患者、といった具体的な数値目標がある方がよいのでは。

事務局： 当院の循環器内科・脳神経外科として、そういった急性期の疾患に対応して増やしていきたいというのが目標だが、国立循環器病センター移転後、そこまで患者は増えなかった。地域の病院から紹介が途切れないうししっかりと地盤を固めていたようでCCUの対応数は増えなかった。SCUの対応数は増えたが、もともと競争相手も多く全てが当院に来るわけではない。豊中市および関連する二次医療圏での特殊救急はある程度受入数を伸ばしていきたいが、現状、救急車搬送受入件数全体の中での割合は10％～15％程度。現体制で何とか対応できる件数ではある。循環器や頭の疾患は、近くですぐ対応できる施設がないと命に直結するが、地方では対応できる病院が無く困っているところも増えている。大阪府でもそうならないようにしていきたい。

事務局： 脳卒中救急に関しては、国立循環器病センター移転時、SCUの病床を整備したこともあり、一時期増加した。しかし、コロナ禍に減り、現在増えてはいるがコロナ前の水準まで戻っていない。

委員長： 計画見直しがこれからも進んでいくと思うが、目標値の引き上げについては慎重にお考えいただきたい。と言うのも、目標値を上げると民間の企業では追加投資をしていくが、病院などの公的機関ではそれによりバランスが崩れることが多々ある。追加の取組みでよくなっても、別の数値、例えば人件費などが悪くなる場合がある。今、一定水準を満たしているのであれば、それを維持することも悪くないことであると検討の際は念頭に置いていただければ。

事務局： 数値目標を提示する必要があるため現時点ではこのような形になっている。当院でしか診ることができない患者、例えば救急では前出の処置が必要な患者を取捨選択はできないので救急車搬送受入件数増に対して下り搬送（救急連携搬送）を拡充し、地域の病院と連携している。目標値の救急車搬送受入件数よりも緊急手術やカテーテル治療など、中身に注目するほうがよいかもしれない。

事務局： 当院の長期的な方向性に係る重要指標として、病床数の見直しという変化は不可避であると考えている。入院単価が上がると病床稼働率は下がることになるだろう。どれくらいの病床数がよいかは現在、転換の途上なので見極めている最中である。このように、今後、数値目標として、向上や一定程度を維持し続ける内容ではご提示できないかもしれないが、取組みの中身で理解いただきたい。

委員長： おそらくどの委員も重々承知していると思う。バランスに留意しながらご検討いただければと思う。

#### （４）部会の活動について（患者食調理業務等委託事業者選定部会）

・事務局から、資料４（報告案件）に基づき説明

委員： 病院全体で、管理栄養士は何名いるのか。

事務局： 11名在籍。

委員： 病院規模に対して相当少ないと思う。国公立の病院は人数が少ない。管理栄養士の数も一つの原因にもなっている可能性がある。

部会長： 今年度から開始している医事業務委託事業者選定部会についてご報告させて

いただく。当部会は医療事務の効率化と患者サービスの向上を目的として、次期委託事業者の選定を公募型プロポーザルの方式で検討中。市立豊中病院では令和8年1月に電子カルテ更新を予定しており、病院システムとともに業務全体の見直しもあわせて進めていきたいと考えている。部会は令和7年6月に第1回選定部会を実施して、委員委嘱後、評価基準や業務仕様並びにスケジュールの確認を行った。透明性および公正性を担保しながら、医療サービスのさらなる向上をめざす。今後、プロポーザルの結果等経過については改めて報告予定。

#### （５）その他

- 委員： 収入については公立病院のあり方や地域との役割分担の話があり専門外なので置いておくが、費用削減については具体的な内容を示していただきたい。例えば、SPD業者を入れての共同購入は初年度資金的には助かるが、どれだけの値引き効果があったか、医療機器等を入札にかけると基本的には民間より高い価格になると思うのでそれをどのように下げるのか、総合管理をどのように分けるか、などコスト見直しや削減の具体的な目標や実績が見えなかったので次回はご報告いただければと思う。
- 委員： 電子カルテ入れ替えでご苦労されているが、AIやDXは使う側が大きく変わる。これを機会に従来手法からの転換を行い、生産性の向上に取り組んでほしい。
- 委員： 救急について、市立豊中病院が頑張るほど民間病院に影響してしまうのではという話が出たが、やはり要は地域との役割分担、機能分担である。中間見直しの「Ⅱ-2 地域包括ケアシステムへの貢献」において、豊中市保健所が令和6年10月に改定した地域医療推進基本方針の別冊豊中市医療体制策定に協力し、当院の地域における役割を確認しましたとあるが、その概要をお示しいただきたい。
- 事務局： 大まかな当院の役割としては、これまで議論をいただいていた通り。核は緊急症例への対応、特に脳や心臓などの処置が必要な緊急症例に応えていく。あとは小児周産期、がん診療を中心とした高度専門医療、こういったものを重点的にやっていくことが、当院が地域の中で果たすべき役割であると市の基本方針とその別冊の中で明記された。今回の病院運営計画中間見直しもそれに沿っており、その役割を果たすべく、今年度予算も合わせる形で編成している。
- 委員： 豊能二次医療圏の災害拠点病院は吹田の阪大病院と済生会千里があるが、市立豊中病院の重要な役割としてめざしていただきたい機能である。
- 事務局： 災害拠点病院はヘリポート整備やDMAT隊員を入れるなどが必要でなかなか難しい。当院はあくまでも二次救急がメインなので、一次救急メインの専門医が採用しづらい。そのため、原則としては吹田の二施設に頼らざるを得ないというのが実際のところだが、豊中市の災害センターとしてできるだけ災害拠点病院に近い内容を提供できるよう取り組んでいる。昨年度はDMAT訓練にも参加して阪大キャンパスのグラウンドからドクターヘリの発着もさせていただいた。

#### ４．閉会

事務局： 次回、第2回病院運営審議会は9月16日（火）14時より開催。

<以上、終了>